

日本学術会議 公開シンポジウム

AI・イノベーションに向けた社会連携

平成29年9月11日（月）13:30～16:30 日本学術会議6-C(1・2・3)会議室

総合司会 | 林 秀弥

- 日本学術会議連携会員
- 名古屋大学大学院法学研究科教授

13:30 吉田 丈人【シンポジウムの開催にあたって】

- 日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科准教授

第一部【基調講演】13:40～14:40

13:40 AIネットワーク化の展望と課題

福田 雅樹 ■ 大阪大学大学院法学研究科教授

14:10 広がる機械学習とその応用

鹿島 久嗣 ■ 京都大学大学院情報学研究科教授

14:40-14:50 休憩

第二部【パネルディスカッション】14:50～16:20

司会 | 吉田 丈人

- 日本学術会議連携会員
- 東京大学大学院総合文化研究科准教授

パネリスト |

福田 雅樹 ■ 大阪大学大学院法学研究科教授

鹿島 久嗣 ■ 京都大学大学院情報学研究科教授

赤池 伸一 ■ NISTEP科学技術予測センターセンター長

茅 明子 ■ JST社会技術研究開発センターアソシエイトフェロー

高山弘太郎 ■ 日本学術会議連携会員、愛媛大学大学院農学研究科准教授

隠岐さや香 ■ 日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院経済学研究科教授

原 隆浩 ■ 日本学術会議連携会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授

16:20 住井英二郎【閉会挨拶】

- 日本学術会議連携会員
- 東北大学大学院情報科学研究科教授

16:30 閉会

主催 | 日本学術会議若手アカデミーイノベーションに向けた社会連携分科会、若手アカデミー運営分科会

日本学術会議 公開シンポジウム

AI・イノベーションに向けた社会連携

平成29年9月11日（月）13:30～16:30 日本学術会議6-C(1・2・3)会議室

開催趣旨 |

ICTの高度化・インテリジェント化が止まるところを知らない。2045年にはコンピュータの能力が人間を超え、技術開発と進化の主役が人間からコンピュータに移る特異点(シンギュラリティ)に達すると議論されるなど、その処理能力は加速度的に高まっている。また、IoTやヒトに係る情報を含む各種センシング技術の進化によって、無限と言って過大でない多種多様な情報が収集活用されるようになっている。ビッグデータ、人工知能、ロボット等を通じて、既に私たちはこれら技術の恩恵を既に受け始めている。しかしこれらは始まりであり、十年後、二十年後には、今の私たちにはSFとも思われる世界が広がっている可能性がある。

この技術進歩は、社会をどのように変えていくのであろうか。新たな世界において、機械と人間の関係はどのように変化していくのか。私たちが新たな技術を使いこなすためには、何を考えておく必要があるのか。また、この技術進歩の中で主要プレイヤーの立場を確保しようとする動きが、欧米そしてアジア各国において官民を問わず進んでいる。これまでICT分野において世界をリードしてきた我が国が、この変化に正面から向き合い、更なる高みを求めていくためには何が必要か。このような問題意識を背景に、本シンポジウムを開催する。シンポジウムにおいては、所属・分野の壁を越えて議論することで、これらの発展を総合的に展望するとともに、関連分野における我が国の国際競争力強化のあり方も含め、課題の整理と今後の取組に係る提言を行うこととする。

主催 | 日本学術会議若手アカデミーイノベーションに向けた社会連携分科会、若手アカデミー運営分科会